

保存樹林および樹木保存区域の指定について

(第三次指定)

○ 保存樹林の指定基準(杜の都の環境をつくる条例 第19条第1項、同施行規則第14条)

指定しようとする樹林が、健全で、樹容が美観上特に優れ、かつ次の事項1. 2. の両方に該当すること。

1. 以下 ア)、イ)のどちらかに該当すること。

ア)樹林を構成する樹木の樹冠投影面積の合計が 300m² 以上であること。

イ)並木をなす樹林の場合、並木延長が 100m以上であること。

2. 樹林が市街化区域内に存在すること。又は以下ア)、イ)の両方に該当すること。

ア) 樹林が東北本線仙台駅から概ね半径 10km 圏内に位置すること。

イ) 樹林が山村振興法により指定された振興山村の区域以外に位置すること。

○ 樹木保存区域の範囲(杜の都の環境をつくる条例施行規則 第15条)

樹木保存区域に指定しようとする土地の範囲について、保存樹木等の樹冠投影面(当該部分に建物等が建築されている場合は、当該建築物等の建築面積に相当する部分を除く。)の部分及びその周辺の土地のうち市長が適当と認める部分とする。

○ 対象樹林

所在地(形態)	若林区日辺字宅地1(屋敷林)	面積	723m ²
主な樹種	高木:スギ、ケヤキ、オオバボダイジュ等 中低木:アオキ、ヤブツバキ等	仙台駅から の距離	約 6.2km
指定基準 との関係	樹林として健全かつ樹容が優れており、さらに規則 14-1-ア、規則 14-2-ア及びイの双方を共に満たしている。		

○ 指定理由

- ・ 歴代の所有者が約 140 年にわたり丁寧に管理・利用している屋敷林(居久根)であり、倒伏のおそれのある樹木などは見られず、健全な樹林である。
- ・ スギ等の高木とヤブツバキ等の中低木がバランスよく配植され、また下層や林床付近を含め良好に管理されているため、樹林の内外ともに美しい樹容を呈している。
- ・ 屋敷林(居久根)の樹木が現在でも建材等として利用されていることや、周囲の寺社林や他の屋敷林と一体となった良好な景観および緑のネットワークを形成していることから、文化的および生物多様性保全の面でも価値が高い。そのため、「仙台市みどりの基本計画」に記載した各施策を実施するうえで貴重であり、また屋敷林(居久根)の保全に関する本市の考え方を具体的に示す事例としても重要である。



敷地平面図



樹木保存区域平面図
(A=723m²)

